

都市再生整備計画 事後評価シート
高崎市中心市街地地区

平成23年2月

群馬県高崎市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	群馬県		市町村名	高崎市		地区名	高崎市中心市街地地区		面積	122.0ha			
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	4,066百万円	国費率	0.424				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	高崎駅西口線整備事業、西一条通り整備事業、東一条通り整備事業、市道A631号線整備事業、バリアフリー特定路線歩道改築事業、高崎駅西口線歩道景観整備事業、お濠周辺修景施設・歩道整備事業、高崎駅周辺(西口)土地区画整理事業、西口線周辺土地区画整理事業									
			提案事業	お濠周辺環境整備事業、庁舎文化施設周辺・中心商店街にぎわい創出支援事業、コミュニティシネマ事業									
	当初計画から削除した事業		基幹事業	事業名	削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			提案事業	モデル商店街活性化支援事業	モデル商店街:他の補助事業(県事業)による実施としたため削除				モデル商店街:県事業による関連事業移行のため影響なし				
	新たに追加した事業		基幹事業	高崎駅東口イベント広場整備事業、東二条線歩道景観整備事業、公益施設アクセス道路整備事業(高質空間)、人工地盤(東口駅前広場ペDESTリアンデッキ)整備事業、高崎駅東口複合交通ターミナル整備事業、高崎駅舎改修整備事業	イベント広場:官・民による東口の大型開発による賑わい創出のため追加 東二条線歩道景観:当路線が駅玄関口として色合いを濃くしてきたため、高質空間形成として追加 公益施設アクセス道路:高崎病院の建替によりバス運行経路となることから、早急な幅員確保の必要性により追加 人工地盤:バリアフリーの安全で一体感のある歩行経路確保のため追加				イベント広場:指標「まちなか環境に対する満足度」の目標値を上方修正 東二条線歩道景観:指標「まちなか環境に対する満足度」に関係するが、数値目標は据え置き 公益施設アクセス道路:指標「まちなか環境に対する満足度」の目標値を上方修正 人工地盤:指標「歩行空間に対する満足度」を追加 交通ターミナル:指標「歩行空間に対する満足度」を追加 駅舎改修:指標「歩行空間に対する満足度」を追加				
提案事業		高崎駅駅舎耐震改修事業、まちなか花いっぱい事業	駅舎耐震改修:デッキ接続により駅舎本体の耐震改修が必要になったため追加 まちなか花いっぱい:地元住民要望の事業調整が整ったため追加				駅舎耐震改修:指標「歩行空間に対する満足度」を追加 まちなか花いっぱい:指標「まちなか環境に対する満足度」の目標値を上方修正						
交付期間の変更		当初	平成18年度～平成22年度		変更		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	まちなか環境に対する満足度up	%	38	H15	65	H22	45	△	あり なし ●	評価値計測以降も大規模な事業が行われており、本来の効果の発現は得られない状況ではあるが、満足度はある程度上昇した。目標未達成ではあるが、都市基盤整備やまちなか施設の充実が図られた効果が現れていると考えられる。	平成24年12月	
	指標2	地区内定住人口の増加	人	4,326	H17	4,700	H22	5,641	○	あり なし	土地区画整理事業等により機能的なまちなか住宅地の出現が可能となり、「高崎市の顔」として高品位な都市景観・歩行空間の創出が図られたことで、民間のマンション建設を誘引し、定住人口の増加へ繋がった。	平成23年5月	
	指標3	まちなか歩行者の増加	人/日(10h)	69,353	H16	78,000	H22	31,272	×	あり なし ●	近年急速化した大規模商業施設の郊外への進出により、中心市街地の地位が相対的に低下してきていることや、駐車場・公共交通手段の不備等アクセス面での不利が影響していると思われる。ただ、指標では調査地点を抜粋して計測しているため減少が偏ってしまっているが、中心市街地の通行量全体では従前値比95.5%であり、増加している地点も多く、歩行者の動線の変化が大きく起因している。	平成25年3月	
	指標4	商品販売額の増加	億円/年	750	H17	850	H22	781	△	あり なし ●	西口では区画整理により商店街がリニューアルされ、魅力ある店舗が集積してきたとともに、東口でも商業施設の立地が進み、駅東西が共に商業の賑わいを創出したことにより、商品販売額が増加した。	平成25年度	
指標5	歩行空間に対する満足度	%	58	H18	87	H22	88	○	あり なし	駅東口はペDESTリアンデッキ築造やエレベーターの設置とともに、駅舎改修も行い、バリアフリー化され移動しやすい歩行空間が完成しつつあり、その期待と、一部の施設完成により、満足度が向上した。	平成23年9月		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	高崎駅の乗客人数(1日平均)	人/日	29,376	H17			30,831			高崎駅周辺の基盤整備、居住環境整備等によって地区内人口の増加が図られたこと、さらにJR高崎駅舎及びペDESTリアンデッキの整備により、年々着実な利用者の増加へ繋がった。	平成24年7月	
	その他の数値指標2	市内循環バス「ぐるりん」の運行本数	本	140	H17			176			駅周辺の基盤整備とともに、「歩きやすい(移動しやすい)まちづくり」を推進し、交通弱者への移動手段の確保・市内移動の利便性向上を追及した経路見直し等により、快適で移動しやすいまちづくりが進んだ。	平成23年7月	
4)定性的な効果発現状況	高崎駅周辺地域では、商店街や企業などによるチーム・ハナハナ・ストリートや高崎駅周辺地域エリアマネジメント協議会が設立され、イベントの支援や実施などに積極的に取り組むなど、地元を主体としたまちづくり活動が活性化しており、まちづくりに対する市民参加の機運も高まっている。												
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況									今後の対応方針等	
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	西一条通り整備に関する協議	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									● 地元にも密着する道路等について、今後も住民や商店街の意見を充分考慮しながら、地元にも来訪者にも親しまれる施設となるよう調整を図る。	
持続的なまちづくり体制の構築	・駅周辺の企業・商店によるエリアマネジメント活動 ・市民ボランティアによるまちなか美化活動		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									● チーム・ハナハナ・ストリート、高崎駅周辺地域エリアマネジメント協議会のまちづくり活動、花みどりの会の美化活動に対して、今後も継続的に支援していく。	

様式2-2 地区の概要

高崎市中心市街地地区(群馬県高崎市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
メインテーマ【都市機能が集積し、コンパクトでにぎわいとおもいやりのあるまちづくり】 目標①「商業・福祉・文化」が融合し、「何度でも訪れたい」まちをつくる。 目標②「住む人を育むゆとり」と「内からのにぎわい」を感じるまちをつくる。 目標③ まちなか散策や買い物など、歩行者の歩きやすい(移動しやすい)まちをつくる。	まちなか環境に対する満足度up	単位: %	38 H15	65 H22	45 H22
	地区内定住人口の増加	単位: 人	4,326 H17	4,700 H22	5,641 H22
	まちなか歩行者の増加	単位: 人/日(10h)	69,353 H16	78,000 H22	31,272 H22
	商品販売額の増加	単位: 億円/年	750 H17	850 H22	781 H22
	歩行空間に対する満足度	単位: %	58 H18	87 H22	88 H22



まちの課題の変化
 区画整理による面的整備を基礎として、歩道改築や高質空間形成事業、高崎駅舎の改修、東口ペDESTリアンデッキ整備事業等により、良好で高質な都市景観が創出され、人口も着実に増加してきた。これら基盤整備と共に、西口では商店街がリニューアルされ、魅力ある店舗が多く出店し、東口でも大型商業施設の立地が進んだものの、中心市街地の歩行者数は減少している。来街者の増加による交通拠点性を活かした賑わいのあるまちづくりと商業の活性化が望まれる。また、市立図書館の移設、保健所の新設を迎え、多くの市民が利用する公益施設が集まる地区となるため、より利便性の高い快適な移動手段の整備と、まちなかの回遊性が必要である。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)
 安全で便利なまちづくりにより住みやすさを向上させ、まちなか居住をさらに進めるため、区画整理による基盤整備や地区内のバリアフリー化を促進する。また、地区内の老朽化した道路等を改築し、景観に配慮した基盤整備を進める。市内循環バスについては、利用しやすい環境を整備し、路線の変更等も視野に入れ利便性の向上を図るなど、安全で移動しやすい歩行経路と移動手段を整備するとともに、まちなか散策の誘導などで、来街者がまちなかを楽しく回遊し、長く滞留するような仕組みをつくる。広域交通ネットワークの拠点機能をさらに強化することでアクセス性を高め、年間を通じた様々なイベントの集客力に加え、商店街の魅力でにぎわいを創出し、来街者の増加を図る。